



令和3年7月1日 現在
総世帯数 8,088世帯
総人口 17,438人
男 8,763人
女 8,675人

**芳川地区
地域づくりセンター**
☎58-2034

芳川出張所
☎58-2034

芳川公民館
☎58-2034

芳川福祉ひろば
☎57-0168

※芳川地区地域づくりセンター、
芳川出張所、芳川公民館への
連絡は同じ番号となります。

6月29日、7月7日福祉ひろばと地区公民館共催で、ふれあいウォークを開催しました。

今回のテーマは「あじさい寺、内田の名所を訪ねる」とし、寿の弘長寺、内田の法船寺、牛伏川フランス式階段工、馬場家住宅などを訪ねました。色・形さまざまなあじさいが咲き誇る中、梅雨空のひと時を楽しみました。

あじさい寺を訪ねて

遅霜の影響もありましたが、参加者から「あじさいには、こんなに多くの種類があったのか」「雨も降らず、気持ちよくウォーキングができた」など口々に感想を言い合っていました。

重要文化財・馬場家住宅では、職員に各部屋の機能などについて

わかりやすく話していただき、豪農の暮らしぶりを垣間見ることができました。

芳川からのアクセス

もよいため、

みなさんも

お出かけ

してみてください？



カラーでお見せできないのが残念です



芳川小学校4年生が四ヶ堰について、上村井淳さんを講師として招き、座学とフィールドワークで学びました。

芳川小四ヶ堰学習

芳川地区は、田川と奈良井川に挟まれているのにもかかわらず、湧水に乏しく、村井町・小屋・野溝・平田の4村は、奈良井川の河原に堰を造って、田畑に水を引いていました。しかし、河原の堰は、大水や洪水で度々壊れ、対岸の村との水争も絶えませんでした。

そこで、明治初年平田村の名主・百瀬三七は、恒久的な堰を造ることを決意し、大変な苦勞の末に、奈良井川の外に川と並行して流れる新しい堰を造りました。

そこから時を経て、昭和9年に当時の最新の技術である、今のような円筒分水に改修されました。



女と男この時代

男女共生、ジェンダー、フェミニズム、夫婦別姓など今日的な話題をテーマにシニア短期大学の講座(6月24日、7月1日)が開催され、30人が受講しました。

柏澤公民館長が男女共生にかかわる諸テーマについて、歴史的経過、世界の状況、漠然とした印象ではなく具体的な事実や数字に基づいて解説しました。

「らしさ」の押しつけで、かつて女性は、「4年制の大学なんて行くもんじゃない」「女の幸せは結婚などと進学にあたって学部を選ぶ自由が制限され、生き方についても押しつけがあった時代がありました。世界的に見ると日本の女性の地位は、121位と低迷。幸福度も低いのが実情です。

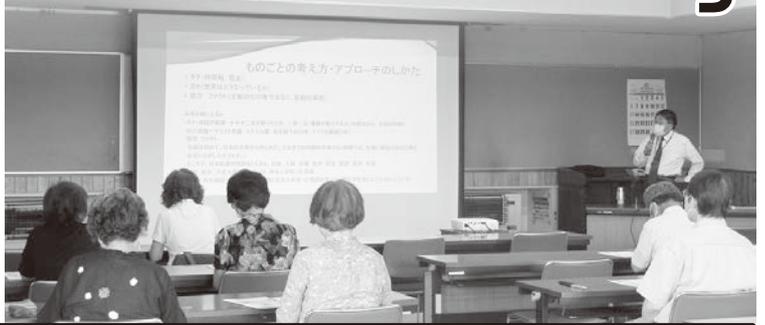
幸福度が高く、日本のような少子化問題に直面していない北欧の国では、女性の地位が高く、男女共生、男性の育児参加が当たり前です。

男女ともに真に学びや職業選択の自由が保障され、男性が積極的に子育てに参加し、それを行政が後押しする体制が整えば、少子化の問題も解決に向かうのではないのでしょうか？

寺島正平さんを受章おめでとうございます！

美芳町の寺島正平さんが、今春、藍綬褒章を受章されました。寺島さんは保護司として、21年目、長年にわたり、更生支援にあたってこられました。

寺島さんは美芳町で奥様と寺島酒店を営んでおります。



芳川の今昔物語

第34話

二区堰分水場

野溝・平田の用水を管理している二区堰は、1872(M5)年に現在の新水路、2,400mが開さくされた。以後1961(S36)年までは土水路により漏水に悩まされており、翌年から3年かけてコンクリート水路に改修された。この写真(↑)は改修前の写真である。



撮影:1960年頃か?

(↑)野溝堰・平田堰も順次コンクリート水路化され、平田側には大水時に奈良井川に放水する水門が設置された。

現在は……(←)



撮影:1980年頃か?

1992(H4)年から緑農住区開発関連土地基盤整備事業が始まり、4年の歳月をかけて野溝・平田エリアの農地が整備され、二区堰水門(通称・大土居)も新しくなった。



撮影:2020年9月2日

たちばなし

知っているようで知らない歴史

芳川地区で古い史料に登場するのが、平田郷と村井郷です。平田郷が初めて登場するのが永仁三年(二九五)で、山内時通が子供に下平田郷の地頭職を譲り渡しています。この史料から正平二〇年(三六五)までの間に六通の譲り状が残っています。鎌倉時代から南北朝時代の平田郷は山内(首藤)氏が支配していました。この家系は後に有名な山内一豊につながってきます。

村井郷は文明七年(四七五)に諏訪大社の祭の責任者に当てられ、村井次郎左衛門清知が役を勤めています。そして天文一七年(五四八)に武田晴信が小笠原長時を攻撃するための基地として村井城を選びます。村井城は今看板しかありませんが、武田が深志城を本拠とする前の重要な城だったのです。土地整備により跡形もなく、寂しく思います。

つまらない歴史の話ですみません。今後は小笠原氏をもっとメジャーにしたいと思います。